

『どうでもいい』 作：ポチ子

『どうでもいい』 作：ポチ子

どうでもいいと思っているのに、

どうして捨てられないんだろう。

着なくなった服、

読まない本、

挨拶するだけの友達、

嫌いな仕事、

偉そうにアドバイスしてくるやつ、

全部いらない。

そう思うのに、手放せない自分がいる。

自分が手にしているものが、

あまりに少なすぎて、

価値がないものばかりだと嘆いても、

それを手放して、

なにも残らない自分を知るのが怖い。

あれのここが悪い、

誰かより自分の方が優れている、

そうやって、勝手に評価をくだしている自分が、

いらぬ側だと、

そう知るのが怖い。